

1. 単元名 高取ホタルプロジェクト

2. 単元の目標

- ・長溝川に生息するホタルについて自分の中で課題を見つけ、効果的な調査方法で友達と調べたり、まとめたりすることを通して、ホタルや高取地域の魅力を多面的に理解する。 (知識・技能)
- ・長溝川に生息するホタルを紹介するに当たって、調べたことをもとにホタルが生息する高取地域の持続可能性について考えたり、表現したりする。 (思考・判断・表現)
- ・長溝川のホタルや、地域に関する関心を高めるとともに、長溝川の環境保全のために、自分達にできることはないか、意欲的に調べたりまとめたりすることを通して、自分達にできることに取り組もうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「高取校区のホタル」、「長溝川の環境保全」を教材として取り上げる。高取小学校校区の動物愛護家や、大牟田市役所環境保全課の方を招き、年間で3回のホタルプロジェクト会議を行い、活動の意義を学んだり、視野を広げたりすることで、これからの自分達の実践の目的を見つめ直したり、よりよい方法を考えたりすることができる教材である。また、長溝川の水質調査や、ゴミ拾い活動をすることで、高取校区の自然をより身近に感じ、「大切にしていきたい」、「守っていくためにできることをしたい」という思いを持たせることができる。

さらに、大牟田市は、ここ数年で豪雨や台風の被害に見舞われ、川の水位が上がり氾濫することが起こった。このことを取り上げることを通して、気候変動による生き物の減少という課題について考えさせることで、自分事として課題を考えるきっかけとし、一人一人ができることを話し合い、行動に移すことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、高取小学校のすぐ側にある長溝川に生息するホタルを日頃から観測したり、学校にあるカワニナの家の様子を見に行ったりする姿が見られるなど、長溝川に生息するホタルに強く関心を持っている。また、普段から地域の方と長溝川のホタルやカワニナの話をしたり、観測に行ったりと、交流が深く、コミュニケーションを積極的にとりながら活動をしていくことができる。さらに、第4学年時に当時の5年生から、高取ホタルプロジェクトの内容を引き継がれており、水質調査やゴミ拾い、ポスターでの地域への呼びかけなどの活動をしたことを知り、使命感も感じている。

また、社会的な事象や身の周りの実態から課題を見つけたり、友達との対話を通して考えを練り上げて具体的に実践することができたりすることができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、高取校区のホタルの現在の観測数を確認したり、G Tの方の話を聞いたりし、減少している原因の一つが最近の台風や大雨であることを知り、課題をつかむことができるようにする。また、ホタル鑑賞会を実施し、今後の学習に意欲を持つことができるようにする。

次に、インターネットや本で調べたことをもとに、自分達ができることをグループで話し合い、ホタルプロジェクト会議①で全体で交流することができるようにする。さらに、ホタルプロジェクト会議②では、動物愛護家や市役所、公民館の方も招き、児童が考えた作戦にそれぞれの立場からアドバイスや意見をもらうことで、よりよい実践となるように見直しをさせる。そして、会議で出た「水質調査」や「川の清掃」、「カワニナの住みやすい家づくり」などの作戦を実行していくことを通して、自分達の力で最後まで取り組む責任感を持つことができるようにする。

そして、近年大牟田を襲った台風や大雨の被害を想起させるとともに、長溝川に起きた被害を報じた新聞記事を提示し、気候変動による生き物の減少という問題について、自分達にできることはないか考えさせる。また、これらのプロジェクト活動を通して学んだことを、地域の人々に伝えるために新聞やポスターにまとめて掲示をすることを通して、これからの活動にもつなげていくことができるようにする。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・多様性・・・ホタルだけでなく、長溝川にはホタル以外にも様々な生き物がいる。
- ・有限性・・・長溝川の環境が悪化すると、今はいる長溝川のホタルもいなくなってしまう。
- ・相互性・・・ホタルなどの様々な生き物と、人間がともに暮らしていくことを目指したい。
- ・連携性・・・これまでホタルを守るために様々な立場の多くの人々が協力し続けてきた。
- ・責任性・・・続けていくにはそこに住む自分達の行動が大切である。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

クリティカルシンキング・・・ホタルプロジェクト会議で、これからの自分達の実践の目的を見つめ直したり、よりよい方法を考えたりする力。

コミュニケーション力・・・どうすればホタルが戻ってくるのか、考えたことを友達と話し合ったり、専門知識のある方から意見を聞いたりする力

協働的問題解決力・・・学級の友達や地域の人々などと協力してカワニナを育てたり、川をきれいにしたりするために最後まで取り組む力

○本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境・生態系の保全を重視する

高取の街で大切に守られてきた、ホタルを守り、増やしていく。

幸福感を維持する

先人の意思を受け継ぎ、環境の美しさという地域の誇りを受け継ぐことが先人や将来の人々にとっての幸せにつながる。

○達成が期待されるSDGs

- 1 1 持続可能な都市・まちづくり
- 1 4 海洋資源・海の豊かさ
- 1 5 陸上資源・陸の豊かさ

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①カワニナやホタルの生態、長溝川の性質などについて理解している。</p> <p>②学んだり調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身につけている。</p>	<p>①インターネットや本で調べたことをもとに、課題を見だし、長溝川にホタルを呼び戻すための方策を考えることができる。</p> <p>②ホタルプロジェクトについて学んだことや考えたことをポスターや新聞に表現することができる。</p>	<p>①長溝川のカワニナを増やしてホタルを守りたいという目的意識をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。</p> <p>②気候変動による生き物の減少という課題について考え、自分にできることを模索しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全42時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 （4時間）	○これまでのホタルプロジェクトの学習を振り返り、今後の学習の見通しをつかむ。	○これまでの活動をまとめた引き継ぎ動画を再度視聴させ、課題を明確にすることができるようにする。 ○ホタル鑑賞会で、実際に長溝川のホタルの美しさ・自然の豊かさを実感させ、活動への意欲を持つことができるようにする。	△ア1 △ウ1
2 （30時間）	○会議で決まったことをもとに、活動を進める。 ① 長溝川の水質調査 ② 校内にあるカワニナの家に住みやすい環境づくりを行う。 ③ 長溝川のゴミ拾いをする。 ④ ポスターを作って地域の人々に協力を呼びかける。	○長溝川のホタルの歴史や地域の人々の願いなどのGTの話聞かせ、活動の意義をつかむことができるようにする。	△ア1 △イ1 △ウ1

	<p>○活動の振り返りをする。</p>	<p>○G Tの方々（市役所環境課・動物愛護課・地域の方・校長先生）を招いてこれからの計画を報告させ、活動を地域に発信することの大切さを実感するとともに、活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○それぞれの作戦を実行していかせ、自分達で責任をもって最後まで取り組むことができるようにする。</p> <p>○体験活動を通して得た思いを観点毎に振り返り、課題と成果をグループで交流させ、自分事として捉え考えることができるようにする。</p>	
3 (8時間)	<p>○気候変動（大雨や台風による災害）による生き物の減少について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の気候変動が、高取の宝である長溝川のホタルだけでなく、各地域の宝である生物を奪っていると知った。できることをしたい。 ・次は自分達に関心をもって未来にまたホタルが集まるようにしなくては。 <p>○活動の振り返りをする。</p> <p>○ホタルプロジェクト会議③で、1年間の活動報告をする。</p> <p>○4年生への引き継ぎ式を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワナが住みやすい家づくりをすることができた。 ・清掃活動はこれからも続けていてほしい。 	<p>○気候変動が地球に与えた様々な事例を取り上げ、気候変動を防ぐ実践への意欲化を図る。</p> <p>○引き継ぎ式を行い、高取ホタルプロジェクトを地域の課題として引き継いでいくことができるようにする。</p>	<p>△ア2</p> <p>△イ2</p> <p>△ウ2</p>